

子どもとメディア 北海道



第24号
2016年
4月発行
今期第4号

6年目をむかえて 子どもとメディア北海道代表 諏訪清隆

4月に子どもたちが高校に入学しました。入学式後のPTA連絡会でちょっと驚いた事がありました。会の冒頭で学年主任が、「保護者のみなさんに一つお願いしたいことがあります」と話され始めました。てっきり自宅でもしっかりと勉強させて下さいと言われるに違いないと思ったのですが、予想はずれ、「スマホ・携帯電話の使用について家庭でも十分に注意をしてください」とのお話でした。

生活指導や進路指導など複数の先生からも同様にスマホ・携帯電話利用について注意を促すお話がありました。入学式当日にこんなにもスマホ・携帯電話についての注意を求められるとは思っていなかったのも、正直、戸惑い驚いたのと、学業や生活リズム、友人関係などへのスマホや携帯電話の悪影響の深刻さを痛感しました。

今や中高校生がスマホを持つのは当たり前、どの家庭にもスマホ、携帯電話、携帯型ゲーム機、タブレットがあるのが当たり前といった風潮を強く感じます。「どうして持っていないの?」、「買ってあげないとかわいそう」とさえ周りから言われ、持っていないことがいけないこと、おかしいことのように感じてしまいます。

メディアに接することが当たり前なのであれば、成長・発達面で環境からの影響を強く受けてしまう乳幼児は、これからますます電子メディア使用開始時期の低年齢化、長時間化が当たり前になっていくでしょう。0歳の赤ちゃんがぐずったらスマホであやすのが当たり前、言うことをきかなかつたらスマホにしつけてもらうことが当たり前になってしまうのかもしれない。

老若男女誰もが電子メディアを使うことが「当たり前」なことならば、「心身や学業、日常生活に悪影響が出ないように使えること・使わせることが当たり前」なはずではないのですか? どうして当たり前の事なのに、それができない人が多いのですか?

みんなができないから自分ができなくても当たり前なのですか?

それは正しいことですか?

「多くの人がやっているから当たり前、普通のこと」は必ずしも「正しい事、個人にとって良いこと」なことばかりではありません。とりわけ子どもたちにとって、何がより良いことなのか、必要なことなのか、電子メディアとどうつきあったらよいのかを伝えていくことはとても大切なことだと思います。

さて、平成26年12月に北海道子どもの生活習慣づくり実行委員会によって「どさんこアウトメディアプロジェクト」が始動して1年が経ちました。北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課をはじめとした道教委による啓発活動は続いており、道内各地での多くの講演会が開催され、私も微力ながらお手伝いさせていただきました。

この1年で道内でのアウトメディアの波がずいぶんと広がってきたことを実感しています。でも、まだまだ北海道のすみずみまでアウトメディアの活動は行き届いておらず、地域によっての温度差が非常に大きいのが現状です。子どもとメディア北海道はこれからも道教委をはじめ各機関と連携しながら、北海道の子どもたちのために活動を続け、広げていきたいと考えています。

私たちの取り組みは一朝一夕で成し遂げられるものではありませんし、その効果や結果は見えづらいものです。活動のやりがいを感じにくいこともきっとあると思います。だからといってあきらめてしまったら、途中で止めてしまったら、もうその先はありません。

私たちが地道な活動を続けていくことで、一人でも多くの子どもたちや家庭を救うことができる可能性があるなら、とても大きな意義があります。

会員の皆様に支えられて子どもとメディア北海道は6年目をむかえることができました。この節目にあたり、私は、「北海道 いつも どこでも どこまでも」と創刊号で記した活動方針の意義を再度自覚し、前を向いて進んでいける1年にしたいと思っています。

- ☆ 諏訪先生の子どもさんが、高校に入学されたのですね。おめでとうございます。やはり、自分の子どもが学生の時の様々な体験を通して、親として実感を伴って考えさせられますよね。
- ☆ 中谷もここ半年ほど高校生に講話させてもらう機会が何度かあったのですが、非常に難しさを感じました。「ネットのリスクから自分の未来を守るために何をどう気をつけたら良いのか」などの話は理解してもらいやすいですが、もう中学時代から同じような話を何度も聞いているようでした。一番伝えたい「ゲームやSNSで奪われている時間をもっとリアルの実感に当てて欲しい」「人との直接のコミュニケーションの大切さ」などは、リアルの世界ではしたいことがない・目標がもてない・自己肯定感が低い生徒さんには、残念ながら伝わりにくいと感じました。・・・私の伝える力の不足なのですが・・・。
- ☆ 乳幼児期から高校生になるまでの間の親子の信頼関係があれば伝わるんだよねあと、私の周りの親子さんを見ていると感じます。やはり、乳幼児期の親御さんに、子どもの成長に必要なことや電子メディアのリスクについて知ってもらいたいですねえ。
- ☆ というわけで、前回「耳寄り情報」として紹介した小学館から発売されている「新幼児と保育」の2月号。諏訪代表が話をした内容「保護者と一緒にスマホのこと考えてみませんか？」が6ページに渡って紹介されています。中谷は、札幌の書店3軒を回ったのですが、どこも売り切れ。何とか諏訪先生のページ（6ページ）だけ手に入れました。会員さんにはお届けしますね！

北海道の中学校・高校の先生たちの実践に学ぶ

～依存やトラブルから子どもを守りたい～

学校でできること・教員だからできること・親や地域にも働きかけて

★スマホや携帯電話の使用が多い中学校や高校では、先生たちが日々待ったなしの指導に追われています。★今年に入ってから、学校での講話依頼を受けて出向いていった学校などで、素敵な先生に出会えました。それぞれのお立場で、ご自身で学びながら工夫して、指導に当たられている先生方。頭が下がります。★先生方の実践をほんの一部ですが紹介させていただきます。

教頭先生
吉崎 健一
稚内中学校

北海道新聞の1月13日朝刊に「スマホ我慢 学校生活充実『稚内中で「運動」69%持たず』『成績向上にもつながらず?』」の記事が出ました。教頭先生が小学校に出向いてスマホの影響を伝え、中学生の間は持たせないよう保護者に呼びかけているとのこと。興味津々。



潮見が丘地区子育て連絡協議会主催・2016年2月5日実施の子育て講演会記録より
ごく一部を抜粋させていただきました。(会員の方には、8ページに及ぶ講演記録を添付します。)

稚内の親は「時代に乗り遅れる」と言い、子どもたちにスマホを持たせません。持たせるのだったら依存させないことです。子どもたちは苦しんでいるのです。依存症で苦しんでいる子は3対1の割合で女子が多くなっています。男子の3倍です。ラインのやりとりが夜中までつづいているのです。そんな「300人」の困っている市内の子どもたちを守るのは、私たち大人の役割です。

依存を防ぐには、面と向かったコミュニケーションを大切にするしかない。「和と輪と話」を大事にするしかないのです。教室の中で、お母さん方の中で、先生とお母さん方も、地域の中でも「和と輪と話」をどれだけ大事にできるかです。

15歳までに一番つけておきたい力は「人と関わる力」です。スマホではそうはなりません。これは自分勝手に発信して、自分勝手に傷ついていくだけの道具になっているのです。

私のところにも卒業生で高校を中退した子がたくさんきます。

「先生、仕事ないですか?」ときかれます。

「どんな仕事がいいの?」ときき返したら、口をそろえて「人と関わらない仕事」と言います。

「ベッドメイキング」が人気です。

ベッドメイキングは人と関わらなくてすむと思っているのです。

でも、たいがい一月くらいでやめてしまいます。

それくらい人と関わるのが苦手になっているのです。

スマホは決して安いものではありません。「豊か」になるってどういうことなのかを、しっかり考えられるとよいと思います。大金を払って、子どもを独りぼっちにしちゃだめなのです。スマホは簡単に独りぼっちになる道具です。そうではない道具として持てる時が来るまで、その時を見極めて、持たせてほしいなと思います。

卵アレルギーの子には卵を食べさせないですよ。どんなお母さんでもそうします。もっと深刻なのは「脳にダメージを与えるものを、わかって与えているのかどうか」ということです。そうならないように子どもに話をしているかどうかです。そこが問われてくるのではと思います。

もう、持たせてしまった人もいます。その時は依存にならないように勉強するしかありません。子どもと一緒に勉強するしかありません。お母さん方と一緒に輪をつかって勉強する。大変ですよ。家事をして仕事をして、子育てをして、さらに勉強しなければならない。でも、やるしかないのです。

稚内中でスマホ所持率が低いのは先生方ががんばったからではありません。お母さん方ががんばったのです。

スマホに依存することで、学力に大きな差がつきます。授業がどう、家庭学習がどうかではなく、スマホに依存しているだけでこれだけの差がつくのです。

宗谷の中学校の学力は全道で最下位です。断トツで最下位です。

極論を言います。スマホ依存を防ぐだけで、稚内市の学力も全道平均を超えることができます。スマホに原因があると思うのです。授業改善や家庭学習なども取り組まなければならないのですが、でも、スマホを使うだけでも大きな差がでてくるのです。

稚内中では体力も全道平均を上回っています。依存しなければ、運動も学力も伸びていくのです。スマホ依存しながら運動するってならないですから。

私は、絶対に我が子にスマホを持たせません。みなさんは、どうしますか？

動物園でも子育てを学ばない親は子育てしません。子どもを殺したりしてしまいます。

「どうしたらいいのか？」学ぶしかない。その輪をつくるしかない。母さん方が、先生が、地域が…。

☆他の仕事でたまたま3月はじめに稚内市にお邪魔した中谷。吉崎先生にお話を聞きに伺いました。短い時間でしたが、資料の交換などもでき幸せでした。何より感激したのは、先生の熱い想いです。「何もしなければ、子どもたちがどんどんスマホなどに依存してしまって、成長の時間を奪われてしまうんです。何かせずにはいられませんでした。」「保護者もきちんと伝えれば変わります。保護者の力でスマホの所持率激減が可能になったのです。」「最近では、子育て支援センターや保育園などからも講演依頼がきます。」

☆行政が作成しているリーフレットで吉崎先生のおすすめは、石川県教育委員会が作成した物です。「石川県教育委員会 親子のホットとネット大作戦」で検索してみてください。リーフレットを印刷もできます。

下校途中の小学生に「依存症を今から治せるか」と聞かれたこともあります。(吉崎)



小堀智博先生
(現富良野緑峰高校)
前壮瞥高校

☆今年の3月まで白老町に住んでいた小堀先生は勉強熱心。昨年度の1年間でご自身が担当した「情報処理」の授業70時間のうち、20時間をご自身で組み立てて「情報モラル教育」を実践されました。

☆一部、中谷の講座資料も参考にされたということで、20時間行った授業の生徒さんのノートを見せてくれました。ネット依存について様々な角度から考えさせたり、新聞記事を活用してネットのリスクについて深めたり、さらに乳幼児の育ちと電子メディアの与え方について取り上げたり。

☆さらに、「情報処理通信」と題して、ネット社会についての自分の思いを伝えたり。小堀先生の熱い想いが伝わってきます。会員の方には、生徒さんのノートと通信の一部を、お見せしますね。(許可いただいています。)

木村 先生
英治
倶知安高校

☆木村先生は生徒指導部担当者として、数年前からご自身で資料を作成し、「ネットトラブル防止教室」として全校生徒に講話をしてきました。教室の目的は、「ネット(携帯電話)依存症についての理解を深め、それらと無縁の人生を送るため」と「ネット(携帯電話)のメリット・デメリットを理解し良好な人間関係を築くため」とし、高校生が関心を高められるような資料の工夫をしています。

☆昨年度は、1年生向けに、以下のような生徒自身が考え、意見を交換するような場面も取り入れたそうです。

次の5つのうち 友達にされたらイヤなことはどれ？

1. すぐに返信がない
 2. なかなか会話が終わらない
 3. 知らないところで自分の話題が出ている
 4. 話をしているときにケータイ・スマホを触っている
 5. 自分が一緒に出ている写真を公開される
- 理由も含めて話してみよう!!!

どうですか？

嫌なことって人それぞれで
しょう？

中谷のつぶやき

☆中高校では学校生活の中で日常的にネットを介したトラブルが、学級経営に直接関係し生徒指導に追われているのが現状のようです。大きなトラブルではなく、ネットでのコミュニケーション故の小さなトラブル。またそれ以上に深刻なのが、スマホやゲームの長時間使用による心身への影響です。☆熱心な先生たちは、ご自身で教材を作成したり、授業の中に取り入れたりして、少しでも生徒自身に考えてもらえるよう、大変な時間を費やしています。さらに稚内中学校の吉崎先生のように、学校内だけではなく、地域の様々な教育機関に働きかけて、乳幼児期からの保護者への啓発に取り組まれている例も紹介しました。

☆これだけ全道各地で現場の先生方が苦闘しているのに、もっともっと税金を投入して、児童・生徒への発達段階にあった教材の開発や、それを伝える人材の育成に取り組めないのだろうか。

☆スマホを持っただけで、一気に使用時間が増えることを目の当たりにしている先生方は、ご自身の子どもさんへはかなり慎重に、制限的に与えていらっしゃるようでした。そのような現実を把握していない一般の保護者は、「持たせないと仲間はずれになる」と無防備に与えています。ある意味、「格差」が起きてしまっているのでは？と感じ、これで良いのだろうかと疑問を感じます。

◆ SNSとゲームについての研修会を受けての感想（平成28年2月24日）

◇1年生

- ・3DSを枕元に置いて、夜中にやったりしていて、朝起きてからもたまにやったりしているから、3DSを枕元に置かないようにしたいです。
- ・アンケートで当てはまったのが、8個中8個…。これはさすがにヤバいと思ったので、ケータイ（スマホ）のルールを改めて考え直したいと思います。
- ・SNSやゲームのやりすぎで自分の未来がつぶれていくのが怖いから、これからはしっかりルールや思いやりを持って、自分の体や心は自分で守っていく。
- ・平日はゲームはしませんが、休日は4～5時間ぐらいやってしまうので、ルールを決めて、使用時間を見直したいと思いました。依存症になって、迷惑をかけたくないので、今日、学んだことを心掛けたいです。
- ・自分にあてはまることがあったので、これからは自分でスマホなどのやる時間をコントロールしようと思いました。
- ・SNSのやり方いまよりよくわかった。・今日は、色々なことを教えてくれてありがとうございます。
- ・SNSや、ゲームを今より、少しでも減らせるように、努力したいと思います。
- ・僕は普段からゲームを何時間もやっているの、少しずつ、減らさなければいけないなと思います。
- ・少し時間なども考えて扱いたいと思いました。
- ・ネットを使用する時間を減らすように努力します。
- ・私は、SNSやゲームなど全然やっていませんが、高校生になったら使う時が多くなるので、時間を決めたり、正しい使い方をしていきたいと思います。
- ・SNSはあまりしてなかったのですが、今後も注意しながらスマホ、ゲームなどを使いたいと思いました。
- ・SNSについて、あまり深く考えたことがなかったのですが、今回の講演を聞いて、しっかり考え、使用する際は気を付けて使いたいと思います。
- ・うちは、ツイッターやラインなどをやっているの、トラブルにはなるべく気を付けたいと思います。そして、あまりネットをやる時間を気にせず、何時間もやっていたので、今度は時間を決め、なるべくスマホなどをやらないようにしたいです。

◇2年生

- ・SNSは便利！でも、怖いことがたくさんあるなと思いました。楽しく、でもきちんとルールを守って使いたいです。今日の研修会はとてもいい経験になりました。この研修会の話を活かして行きたいと思います。中谷先生、わざわざ来て、話してくれてありがとうございました。
- ・毎日使っているものなので、改めて、SNSの危険さを知りました。トラブルになったこともあるので、ちゃんと考えなければいけないと思いました。今は、自分専用のスマホではなく、家族とタブレットを使っていますが、それでもトラブルになったので、自分のスマホを持った時、しっかりルールを守ってやりたいと思います。勉強になりました。
- ・スマホやネットで、依存症になることがわかりました。時間を決めて、スマホ・ネットをしないといけないなあ～と思いました。
- ・自分もSNSをやっているの、身近に感じる事ができた。iPod touchに触る時間が長かったりするので、制限したりしようと思う。
- ・SNSとゲームの、人体へのたくさんの悪影響についてよく知ることができました。SNSは使ってないですが、ゲームはやりすぎてしまうことがあるので、なるべくやりすぎない意識を持って少しずつ改善していこうと思いました。
- ・改めて、恐ろしさを知ることができた。自分の生活も改めようと思う。
- ・正直当てはまることが多くダメだと思った。まさか身近にこんなことがあるのかと思った。
- ・今はまだSNSを使っていないが、いつかは使うと思うし、便利だけれどとても危険なものだと思えることができました。

◇3年生

- ・使い方を間違えると、人を傷つけて罪に問われてしまうことがあるなんて考えたことがなかったので、SNSやゲームは怖いと思った。今回、SNSやゲームについて、いろいろと知ることができて良かった。
- ・自分に当てはまることが何個かあったので、教えてもらったことをやらないといけないと思いました。
- ・いくつか思い当たることもあったので、これから気を付けていきたいと思いました。今までは何も起きませんでした。自分は大丈夫だと油断せず、考えて使用していきたいです。情報化していく中で、安全にSNSなどを使用するために、すごくタメになる研修会でした。
- ・これからケータイを持ち始めるので、わからないことだらけで不安があったけど、注意するポイントを押さえて使えば安全だと分かった。家族にもトラブルに巻き込まれないように注意喚起したい。
- ・自分自身はSNSは身近な存在なので、危険性があることは分かっていたが、具体的なことについてはあまりよくわかっていなかった。これからは自分用のスマホを買った場合に役立てていきたい。
- ・まだSNSは利用したことはありませんが、高校に入れば、使うことになるしやってみてみたいと思ったこともあるけど、今日の話聞いて、文字だけでは伝わらないことの多さ、それによって起こるトラブルなど便利な面と危険な面を持ち合わせているSNSなので、気を付けて使いたい。
- ・今回の話を聞いて、自分にすごく当てはまっていて、おどろきました。今まで不思議だったことが今回のでよくわかりました。
- ・今日は、SNSやゲームについて、自分について深く考えることもでき、高校生や大人になったとき、気を付けなければいけないことを学べて良かったです。
- ・年齢が上がっていくにつれて、利用する機会も多くなっていくと思うので、自分のことも、相手のことも、そして周りのことも考えて利用していきたいと思いました。
- ・実際にあったトラブルなども話していただいたので、すごくわかりやすかったです。SNSでのトラブルは誰にでも起こり、自分にとっても身近な話なので、今日話していただいた注意点などを頭に入れながら使用していきたいと思います。
- ・最近スマホを持ち始めたので、色々なトラブルや脳や体への影響などが知れてよかった。やはり文字だけなので感情が伝わりにくいし、表情も読み取れないので、これからもそういったことに注意していこうと思った。
- ・SNSを使用するときの注意を改めて知ることができました。日頃から気を付けようと思いました。ケータイをやりすぎないようにしようと思った。
- ・SNSはいつも使っているけど、リスクなどをしっかり考えながら使わなければいけないなあと思いました。高校生になったら多分、スマホを買ってもらおうので、その時には気を付けたいと思います。
- ・私もSNSを使うので、使う時は、きちんと決まりを作って気を付けて使うようにしたいです。今まで、SNSでトラブルになったことはありませんが、これからならないように気を付けたいです。今回はとても勉強になりました。ありがとうございました。

☆せたな中学校の佐々木先生は、以前先生方の研修会で、中谷の話聞いてくれ「ぜひ、自分の学校でも話して欲しい」と尽力してくださいました。

☆佐々木先生は、「技術」が専門のため、情報教育の専門家です。先生曰く「生徒指導の担当になって、ネット関係の小さなトラブルが日常茶飯起きていることに驚きました。中学生の時期は、子どもたちにも学んでもらいつつ、親や教師の責任も大きいと思います。」

☆せたな中学校の生徒さんの感想を読ませてもらうと、当たり前のように利用しているネットが、自分の心と体・自分の未来にとってどのような影響を及ぼすのか、もっともっと伝えたくてきます。

☆これからの活動への勇気ももらいました。ありがとうございました。

H28年2月から4月までの活動報告 & 今後の講演予定

月日	テーマ	行事名・主催者等	担当
2月2日	電子メディアと子どもたちネットとメディアのリスクから子どもを守る	平成27年度 正和小学校PTA教育講演会(旭川)	諏訪
2月2日	子どもの発達と電子メディア	親子ふれあい学びカフェ積丹町教育委員会	中谷
2月5日	ネット利用も含めた望ましい生活習慣づくり	せたな町	中谷
2月7日	デジタル時代の子どもの脳と心～読み聞かせの大切さを考える～	平成27年度うちどく講演会(恵庭図書館)	諏訪
2月9日	子どもの生きる力と大人の社会力	歌志内	中谷
2月10日	中学校入学説明会での講話	白老町白老中学校新入生保護者	中谷
2月12日	電子メディアが子どもたちに与える影響～子どもの心と体を育てるために大切なこと～	旭川医師会 成育講演会	諏訪
2月16日	ネット社会に生きる子どもたちのために～ネット社会における課題と大人の役割～	砂川市青少年指導センター	諏訪
2月22日	子どもと情報メディア～子どもの心と体を育てるために大切なこと～	真狩町保育園	中谷
2月23日	未定	大成中学校保護者(せたな町)	中谷
2月24日	生徒向け授業	大成中学校	
2月25日	メディアから子どもを守ろう～携帯ゲーム・スマホなどが与える子どもへの影響～	豊富保育園	諏訪
2月25日	6年生に授業	白老町虎杖小・竹浦小	中谷
3月1日	子どもの発達段階に応じた望ましい学習・運動と電子メディア	北広島	中谷
3月5日	電子メディアと心身の健康について～未来を担う子どもたちのために今できることは	2016年あびら女性の集い(安平町)	諏訪
3月7日	親だけじゃあ子どもは育たない	稚内市	中谷
3月11日	電子メディアと子どもたち 子どもの心と体を育てるために大切なこと	下川町教育講演会(タウンスクール)	諏訪
4月12日	高校生への講話	倶知安高校	中谷
5月9日・10日	小学校3校(456年生授業)	別海町教育委員会	中谷

5月21日	厚真町「子ども教育委員会」での講話	厚真町教育委員会	中谷
5月26日 27日	未定	おびひろあじさい保育園、こだまり保育園（帯広市）	諏訪
6月11日	未定	すずらんの会（旭川）	諏訪
6月17日	未定	江別市教育委員会	中谷
10月13日	未定	千歳市教育委員会	中谷
10月20日	未定	オホーツク管内養護教員会研修会（清里町）	中谷
10月31日	未定	苫前町	中谷
11月27日	未定	別海町教育委員会	中谷

乳幼児にとっての電子メディアの影響を伝えてくれる第1人者！

胆振管内厚真町に内海先生が、やってくる！！



内海裕美先生の講演会は10月30日（日）10時から

場所は未定。講演題（仮）「スマホに子守りをさせないで！」

1954年文京区生まれ。東京女子医科大学卒業後、同大学小児科学教室に入局。97年父のあとを継ぎ吉村小児科院長に。日本小児科学会認定医、日本小児科医会「子どもの心」研修委員会委員。小石川医師会理事。専門は小児神経、小児保健。子育て支援セミナーの開催など、地元で子供のことは何でも引き受ける相談所的な診療所であることを心がけている。育児雑誌で育児相談も担当。

会員更新の時期となりました。

平成28年度の会費の納入をお願いいたします。年会費（1500円）を、手渡しか、郵便小為替か郵便振り込みにて納入ください。ご面倒をおかけしますが、何卒よろしくお願いいたします。平成28年度の情報誌の発行予定月は、28年7月・10月・29年1月・4月の4回となります。

年会費の納入方法

- ①年会費1500円を、事務局に手渡しする。
- ②郵便小為替1500円分を事務局まで郵送下さい。
- ③中谷個人郵貯口座【中谷通恵 02760-8-26569】に、振り込む。

（その場合は、必ず振り込んだことを、中谷にメールか電話で伝えてください。）

*新規の方や、次年度と情報誌の発送先が変わった方は、事務局まで、住所をお知らせください。（090-3773-8349・michie-n@plum.plala.or.jp）